

国際シンポジウム

Challenges 試練と可能性のメディア それでも君はジャーナリストを目指すか for Media

発表者

ティモシー・マジヨリバンクス メルボルン大学社会政治学部准教授

崔英宰 韓国・翰林大学言論情報学部准教授

中村登志哉 名古屋大学国際言語文化研究科教授

討論者

名古屋大学国際言語文化研究科特任教授

春名幹男

2010.11.26(Fri)
15:00~18:00

名古屋大学文系総合館7階
カンファレンスホール
使用言語:英語・日本語、同時通訳付

連絡先:

名古屋大学教育奨励費・国際言語文化研究科研究プロジェクト

「グローバル時代のジャーナリズム教育」(研究代表 中村登志哉 nakamura@lang.nagoya-u.ac.jp)

主催:名古屋大学国際言語文化研究科

国際シンポジウム

試練と可能性のメディア： それでも君はジャーナリストを目指すか

‘Challenges and Chances for Media: Does anybody still want to be a journalist?’

【概要】

シカゴ・トリビューンなど米有力紙が相次いで倒産し、新聞ジャーナリズムが苦境に立たされている。米国だけでなく、新聞の経営悪化はオーストラリア、日本、韓国などのアジア太平洋地域、英国やフランスなど欧州をはじめ世界的規模に及ぶ。新聞が既に消滅した米国のある町では、投票率低下など住民が地方自治への関心を失う傾向が学術調査の結果分かってきた。

新聞ジャーナリズムが危機に陥る中、権力監視や企業の不正告発をはじめとする役割はどうなっていくのか。ニューメディアがそれにとって代わるのか。市民の政治意識はどう変わるのか。世界のメディア王といわれるルパート・マードック氏の地元オーストラリア、ネットメディアの存在感が大きい韓国、大手新聞の発行部数の多さで世界的な新聞大国として知られる日本。アジア太平洋地域3カ国の気鋭の研究者、ジャーナリストが、急速に変貌するメディアの現状を分析し、今後を展望する。

【発表者】

メルボルン大学社会政治学部准教授 ティム・マジョリバンクス (Dr. Tim Marjoribanks, Senior lecturer, the University of Melbourne, Australia) 米ハーバード大学で博士(社会学)取得。メルボルン大学講師を経て、現職。著書に『ニュース・コーポレーション、技術と職場』(ケンブリッジ大学出版)のほか、メディアに関する論文多数。

韓国・翰林大学言論情報学部准教授 崔英宰 (Dr. Young Jae Choi, Associate Professor, Hallym University, South Korea) 米テキサス大学オースティン校で博士(ジャーナリズム)取得。韓国・聯合通信記者、24時間ニュース専門局 YTN のプロデューサーを経て、現職。韓国メディアに関する論文多数。

名古屋大学国際言語文化研究科教授 中村登志哉 (Dr. Toshiya Nakamura, Professor, Nagoya University, Japan) 豪州メルボルン大学で博士(政治学)取得。共同通信社記者・ウィーン支局長、長崎県立大学教授を歴任し、現職。著書に『ドイツの安全保障政策：平和主義と武力行使』(一藝社)、訳書に『ドイツ統一過程の研究』(青木書店)、欧州情勢のほかメディアに関する論文多数。

【討論者】

名古屋大学国際言語文化研究科特任教授 春名幹男 (Mr. Mikio Haruna, specially appointed Professor for Journalism, Nagoya University, Japan) 共同通信社ワシントン支局長・特別編集委員、名古屋大学教授を歴任し、現職。著書に『秘密のファイル』(上・下)(新潮文庫)、『ヒバクシャ・イン・USA』(岩波新書)など多数。